

登録コード	UA103600	開講年度	2026				
授業題目	行動経済学特講					担当教員	下平 勇太
						副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・3時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・経済学, 2 5 UAカリ・総人社・経済学, 2 4 UAカリ・総人社・経済学						
	【経済学】経済学分野の高度で先端的な知識と技能を有する。					行動経済学および実験経済学の知識を習得し, それを活用して現実の問題を議論する能力を身につける。	
	【経済学】専門知識に基づく論理的な思考の下に、地域・社会・経済について、必要な量的・質的データを採取する能力及び、採取したデータを用いた実証分析や社会調査を行う能力を有する。その分析能力を、地域・社会・経済の課題解決に多面的に展開できる応用力を有する。					実証的アプローチによる研究デザインの構築、データ収集、データ分析、成果の報告、という一連の手順を実施する能力を身につける。	
(2)授業の概要	行動経済学、および行動経済学との結びつきが強い実験経済学について、文献の輪読を通して知識を修得し、両分野の研究動向について理解を深める。さらに公刊済みの実験経済学論文の公開実験データの再分析を実際に行い、実証的アプローチによる研究の手法を理解する。 遠隔授業を実施する際は、Zoomを使用したリアルタイムオンライン授業とする。ZoomのURLは、eALPSまたはメールにて事前に指示する。						
(3)授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 セルフコントロール問題とコミットメント 第3回 セルフコントロール問題に対するナイーブさと先延ばし 第4回 投影バイアスと異時点間の選択に関するその他の理論 第5回 期待効用理論 第6回 プロスペクト理論 第7回 参照点依存の理論の発展と応用 第8回 確率加重の発展と不確実性下の選択に関するその他の理論 第9回 信念から得られる効用 第10回 社会的選好（利得の結果のみに基づく感情） 第11回 社会的選好（利得の結果以外に基づく感情） 第12回 行動ゲーム理論 第13回 不注意の理論とその応用 第14回 補遺、まとめ						
(4)成績評価の方法	輪読への参加（文献の報告）（50%）、レポート課題（実験データの再分析）（50%）。 輪読のスケジュールとレポートの出題時期・提出期限は初回イントロダクションにおいて周知するとともにeALPSにおいても適宜周知する。						
(5)成績評価の基準	口頭での報告およびレポートの文章が（i）その準備段階において適切な文献の精読ができており、（ii）論理的な構成となっており、（iii）基礎的な概念を正しく理解しており、（iv）その上でオリジナルの例や研究アイデアを提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、（i）から（iv）の3項目を満たしていれば「かなり上にある」、2項目までできていれば「やや上にある」、1項目までできていれば「水準にある」、と評価される。						
(6)事前事後学習の内容	事前学習：指示された文献を精読し、（報告者の場合は）報告の準備を行う。（聴衆の場合は）質問をあらかじめ考えておく。 事後学習：指示された文献を改めて読み返し、復習する。レポート課題に取り組む。						
(7)履修上の注意	「解析手法論」、「上級ミクロ経済学」が履修済みであることを前提として授業は行われる。						
(8)質問,相談への対応	授業中に対応する。メールでも対応可能（連絡先は初回授業時に指示する）。						
【教科書】	室岡健志（2023）行動経済学、日本評論社。						
【参考書】	授業中必要に応じて紹介する。						